

褥瘡治療についての考え方は、この10年間で大きく変化しています。10年前、褥瘡は消毒して、ガーゼで(乾燥させて)治すというのが常識でした。今では、修復細菌を殺してしまうため、消毒薬ではなく湿潤環境が必要といわれます。

褥瘡は、よく洗浄して湿潤環境にしておけば自然に治りますが、洗浄用には酸性水がよい、被覆材は何がよいなど、細かい部分ではさまざまな見解があり、在宅現場での褥瘡ケアを混乱させている要因でもあります。褥瘡ケア自体は医療行為であり、介護職が直接行うことはできませんが、今後、利用者の重度化などに伴い、褥瘡のある利用者にサービスを提供する場面も増えてくることでしょう。そこで今回は褥瘡について学び、その治療法の一つとしてラップ療法をご紹介します。

介護職が知っておきたい 医学知識と 症状の見方

ナカノ在宅医療クリニック院長
中野一司

第10回 褥瘡ケア

褥瘡とは

褥瘡とは、長期にわたり同じ体勢で寝たきり等になった場合、身体と支持面(多くはベッド)との接触局所で血行が不全となり、周辺組織に壊死を起こすものをいいます。褥瘡の直接の原因は身体と支持面との圧力(外的要因)ですが、肉因的な要因としては加齢や低栄養、まひ、乾皮症といった皮膚の状態などを考慮する必要があります。

ですから褥瘡のケアの基本は、除・減圧(支持面の調整と体位変換)ですが、皮膚面の保湿と保清(清潔)、栄養管理なども重要です。入浴(不可能な場合は足浴)は褥瘡の有無を問わず、大いに推奨されます。また、全身状態(栄養状態)を良くすることが重要で、最近では、医師や看護師、介護職のほか、歯科医師、薬剤師、歯科衛生士、栄養士、理学療法士、作業療法士、言語療法士などで連携するNST(栄養サポートチーム)や口腔ケアなどを展開する「多職種連携」が重要になってきています。

ラップ療法

ラップ療法(開放性ウエットドレッシング療法)とは、医師の鳥谷部俊一氏により提唱された、簡便かつ低コストの褥瘡の治療法です。ラップで褥瘡部分をやさしく包み、褥瘡の自然治癒力を支援するのがコンセプトです。

褥瘡は、(水道)水で洗った後、ラップなどで傷を乾かさないように工夫(ケア)すれば、自然に治癒します。人体には自然治癒力がありますが、傷ができれば、60兆個の細胞から構成される生体内組織(生体社会)は、創傷部(戦場)に白血球

写真1 褥瘡の創傷部。白血球や血小板などにはこの傷を自然に治す効果がある



写真2 消毒とガーゼ処置をして、褥瘡表面の細胞が壊死した写真



やマクロファージ、血小板、血管内皮細胞、平滑筋細胞などのマイクロ戦士を総動員します。そして創傷・炎症部に動員されたこれらの戦士は、細菌を殺す抗体やサイトカイン、戦いの後の廃棄物を片づけるためのたんぱく分解酵素、復興修復のための血液凝固因子、細胞増殖因子などを生産、分泌し、傷を自然に治すように機能します。

写真1に示す褥瘡には、これらのマイクロ戦士が集合しています。褥瘡へのガーゼや消毒は、これらの戦士を殺してしまい、自然治癒力を減退させかねません。写真2は、褥瘡に消毒、ガーゼ処置をして、褥瘡表面の細胞が壊死した写真

写真3 褥瘡部に医療用のフィルムを貼った様子



写真4 写真3の処置後、褥瘡が完治した様子



写真5 穴の開いたビニール袋

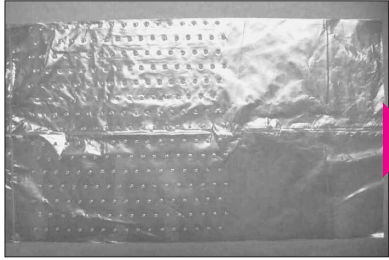
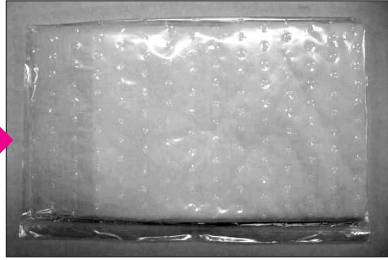


写真6 写真5の袋におむつを詰めたもの



ラップ療法の基本的な考え方

です。ラップ療法では、これらの戦士の行動に、湿潤環境という心地よい場を提供し、支援します。

ラップ療法の基本的な考え方は次の2点です。

①褥瘡を乾燥させない…浸出液（褥瘡周囲の血管から排出される水分）は、褥瘡表面にラップなどで閉じ込めます。褥瘡を乾か

せば、その内部に含まれる褥瘡表面の修復細胞が死んでしまい、褥瘡が治りにくくなります。

②浸出液を排出しやすくする…褥瘡から排出された浸出液は、修復細胞を生かす大切な成分である一方、褥瘡から排出される汚水のため、完全に閉じ込めておけば感染を起します。

このように、褥瘡から排出される浸出液をどのように扱い、褥瘡の修復（自然治癒力）をどのように支援するかが、ラップ療法の命題です。

そのために「浸出液を閉じ込める」「浸出液を排出する」という二つの相反する作業をどのように工夫・実践するかが大切となります。

褥瘡が当たっておむつの部位に医療用のフィルムを貼り、浸出液が横漏れする工夫をしたところ（写真3）、写真4のように褥瘡が完治しました。

今では、台所の生ごみの水を切るための穴の開いたビニール（写真5）の中におむつを詰めた、穴開きポリエチレンビニールとおむつ（写真6）を当てることで「浸出液を閉じ込める」「浸出液を排出する」条件を同時にできる方法を用いています。この方法であれば、褥瘡の大きさや深さにかかわらず、ずれも気にせずに適応できます。

褥瘡を洗う水は、滅菌の生理食塩水である必要はありません。褥瘡の浸出液は、周囲の血管を通してビニールの下から湧き出てきて、細菌も一緒に排液してくれるためです（排液および洗浄が重要）。同様の理由で、穴開きポリエチレンビニールとおむつは、無菌である必要はありません。

在宅現場との相性のよさ

褥瘡をできるだけ早く治したい

のであれば、壊死部をしっかり除去したり、洗浄水や被覆基材にこだわる必要があります。しかし在宅では、誰もが実施できて、簡便かつコストが安いことが望まれます。

ですからラップ療法は、在宅現場に相性がよい褥瘡ケアといえます。前号で述べたように、病院医療が「治す医療」（ケア主体の医療）であるのに対し、在宅医療は、「生活を支援する医療」（ケア主体の医療）です。在宅では、自宅に帰ってこられただけで、精神的にも安定し、自然治癒能力（良い精神症状）が免疫系に働き病気を治すことは、科学的にも立証されています）を引き出し、その人が元気になる場面に遭遇します。

「あなたの褥瘡が治るのを温かく見守り、支援します」というラップ療法のコンセプトは、「あなたの生活を医療、介護、環境面から支援します」という在宅医療のコンセプト、すなわちケアそのものと考えられるでしょう。

【参考文献】
鳥谷部俊「褥創治療の常識非常識」三輪書

＜著者プロフィール＞
●中野一司（なかの かずし）
医療法人ナカノ会理事長、ナカノ在宅医療クリニック院長、鹿児島大学医学部臨床教授。

次回は「認知症のケア」について解説します。